



沖縄国際大学への米軍ヘリ墜落に抗議する市民大会

普天間飛行場の早期返還を求め30,000市民が憤り立ち上がる!



青年代表 上里 広幸さん 「いつになればこの空に爆音をふりまく戦闘機ではなく、自然の鳥たちが飛び交う、美しい島に帰れるのでしょうか。今こそこぶしをあげる時です。」

老人クラブ代表 花城 清英さん 「市民の生命財産を守るためには基地の撤去以外に道はない。子供たちが健やかに育っていくために基地撤去以外に方法はない。」

女性代表 本永 静江さん 「宜野湾市民はいつまで自分の生命の不安におびえなければならぬのでしょうか。私たちの子供や孫のためにも、今こそ『命をかけて』行動を起こす時だと思います。」

市民代表 知念 参雄さん 「沖縄そして宜野湾の声を傾けてこなかった、日米両政府の態度は絶対許してはなりません。積極的な行動を巻き起こしていきましょう。」

PTA代表 高江洲 善勝さん 「私たちに、私たちの子供たちに静かな青い空を、安全なマチを返してほしい。早期返還に向けアクションを起こしていきましょう。」

大学生代表 新膳 裕治さん 「爆音被害や墜落の危険性が指摘されながらも放置してきた、日米両政府の責任は重大であり、事故の原因究明と真実の公表を行ってほしい。」

高校生代表 比嘉 由梨恵さん 「安心して勉強のできる静かな宜野湾市、安心して生活ができる沖縄県、そして平和な未来をのちに残すため、私は基地の撤去を強く求めたいと思います。」

中学生代表 木村 なつみさん 「事故以来、朝起きると、目の前に黒い壁があります。このいつか消えますが、私の心は消えることなく、心の中は不安と怒りでいっぱいです。」

中学生代表 内原 理沙さん 「私は沖縄が好きです。だから沖縄やそこに住む人を傷つけてほしくありません。いつか私が大きくなったころには、基地がない本当の平和の沖縄に立ってたいです。」

小学校代表 島袋 洋奨くん 「みんなこの事件にはとても驚き、大きなショックを受けて不安な気持ちでいっぱいです。もう二度と起こってほしくないし、僕達が安心して生活できる環境になってほしいです。」

被災者代表 仲村 清さん 「事故現場はまさに戦場そのもので、私たち宜野湾区民の不安と恐怖による怒りはもう限界を越えています。」

被災者代表 鎌田 隆さん 「大学の自治が地位協定によって侵害されました。現場に何度入っても身の毛のよだつ思いです。日米軍当局と日本政府に強く抗議します。」

冲国大学長 渡久地 朝明 「静かで平和で安全な環境を保持し、研究、教育を行うという大学の使命を阻害した今回の事故。日米両政府に強く抗議します。」

市議会議員 伊佐 敏男 「宜野湾市議会は、市民の先頭に立ち、危険な普天間基地の一刻も早い返還に向け、全力を挙げて取り組んでいきます。」

市長 伊波 洋一 「もはや、辺野古への移設では宜野湾市の危険は取り除けません。早期返還に向けた協議の開始を求めていきたいと思います。」



抗議決議文 / 宮城奈津子さん

- 一、被害の徹底調査と事故原因を明らかにし、すべての被害に対する謝罪と完全補償を早急に実施すること
- 一、すべての米軍機の民間地上空での飛行を直ちに中止すること
- 一、ヘリ基地としての運用を中止すること
- 一、危険極まりない普天間飛行場を早期返還すること
- 一、SACO合意を見直し辺野古沖への移設を再考すること
- 一、日米地位協定を抜本的に見直しすること

2004年9月12日

沖縄国際大学への米軍ヘリ墜落事故に抗議し、普天間飛行場早期返還を求める宜野湾市民大会

危険な基地はいらない!

「人間が生まれながらに持っている生命・自由・平等などの権利。」すなわち人権が、基地周辺の住民には守られてないことが今回の米軍ヘリ墜落事故で明らかになった。「危険な基地はいらない。」と、九月十二日、午後二時から市民・県民が事故の起った沖縄国際大学グラウンドに結集した。この怒りの声が、日米両政府を動かし、普天間飛行場の早期返還につながるまで諦めてはならない。

